



第14期 決算説明資料

2021年2月5日
株式会社sMedio
(東証マザーズ：3913)

本資料の複写、転用はしないで下さい

本資料の取り扱いについて

- ◆ 本資料は、2021年2月5日現在において、利用可能な情報に基づいて、当社（連結子会社を含む）の事業および業界動向に加えて、当社による現在の予定、推定、見込み、または予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
- ◆ これらの将来の展望には、様々なリスクや不確実性が内在しています。既知、もしくは知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと保証することはできず、実際の結果が将来の展望と著しく異なることもありえます。
- ◆ 本資料中の数値は、単位未満切捨てで表示しており、その影響で表中の合計と一致していない場合があります。
- ◆ 本資料中に記載されている会社名および製品・サービス名等の、各社の登録商標または商標には、一部、®、TMなどの記載を省略しております。

目次

当社のミッション

- 当社のミッション 5
- 当社の注力分野・保有技術 6

2020年12月期 決算概要

- 2020年12月期ハイライト 8
- 連結決算概要 9
- パソコン向け・デジタル家電向け組込みソフトウェア事業 13
- AI+IoT事業 14

2021年12月期 業績予想・事業方針

- 2021年12月期ハイライト 16
- 2021年12月期業績予想 17
- 2021年12月期事業方針 19
- パソコン向け・デジタル家電向け組込みソフトウェア事業 20
- 建設AI+IoT 事業 23
- 代表メッセージ 27

会社概要

- 会社概要 29

The logo for sMedio, featuring the company name in a bold, sans-serif font. The 's' is dark blue, 'Medio' is dark blue with a red dot on the 'i', and there is a small satellite icon above the 'o'. The logo is centered within a white circle that has a thick blue border.

sMedio

当社のミッション

当社のミッション

デジタル・トランスフォーメーション（DX）を加速する。

「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面で良い方向に変化させる。」をキーワードとして製品・技術開発に尽力しています。

デジタル・トランスフォーメーション社会実現には、AI（人工知能）を活用したIoTプラットフォーム（情報基盤）をベースとしたサービスが不可欠であり、**当社は、AIとIoTプラットフォーム分野への投資を強化しています。**



当社の注力分野・保有技術

AI映像解析・分析ソフトウェア

画像・映像解析技術の応用製品を、国内トップメーカーに納入。

パソコン向け・ デジタル家電向け 組み込みソフトウェア (4K/8K)

大手家電/PC/スマホメーカー
に最新の映像・音響再生
ソフトウェアを提供。
数千万台に搭載実績



tourbillon

VALution BD



セキュリティ・ プライバシー 関連ソフトウェア

モバイル向けセキュリティ・
バックアップ技術に、豊富な知識と実績。
「JSバックアップ」「Risk Finder」を
通信事業者、大手メーカーに納入。



**sMedioは画像処理技術のエキスパートとして自社IPを活用した
エンドツーエンドの製品・サービスを提供する会社です。**

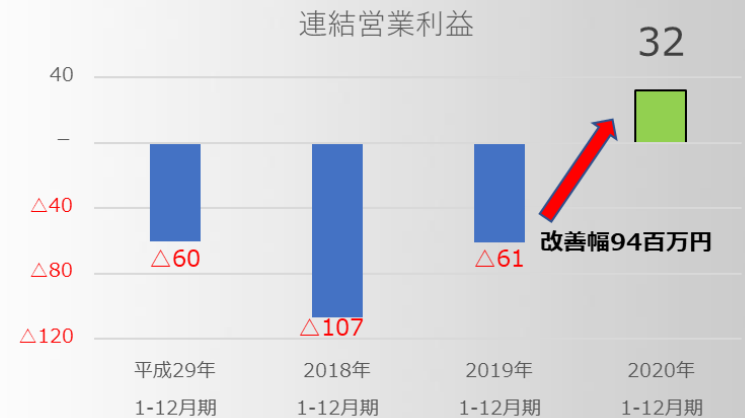


2020年12月期 決算概要

2020年12月期ハイライト

01 業績 通期での黒字化を達成。

- 営業利益32百万円、最終利益10百万円を計上し、通期黒字化を達成。
- 売上高は、前期比51百万円増の913百万円となり、増収。継続的な原価低減と経費節減により、営業利益の改善幅は94百万円に達し、黒字化。
- 営業キャッシュ・フローは189百万円の黒字となり、利益黒字化は、資金増加につながり、現預金は806百万円となった。



02 パソコン向け、デジタル家電向け組込みソフトウェア事業 順調にライセンス案件の積み上げが継続できています。

- 富士通パソコンに「sMedioスマホデータ転送」、Hitachi-LG Data Storageに「True DVD Streamer」、NECパソコンに「True DVD/True BD」の納入を開始したほか、ライセンスビジネスの積み上げができた1年となりました。

03 AI + IoT事業 建設業界向けソリューション提供に特化。切羽AI評価においては複数顧客獲得。

- 「切羽AI評価システムサービス」では、西松建設に続いて大手建設会社2社受注。
- 自社サービスパッケージの第2弾として「動体認識AI解析サービス」を発表。

連結決算概要 (PL)

単位：百万円

	2018年 1-12月期	2019年 1-12月期	2020年 1-12月期	前期比	
売上高	985	862	913	51	6.0%
売上原価	548	467	446	△20	△4.4%
売上原価率	55.6%	54.2%	48.9%	△5.3p	
売上総利益	437	394	467	72	18.2%
販管費	544	456	434	△21	△4.8%
営業利益	△107	△61	32	94	
営業利益率	△10.9%	△7.2%	3.5%	10.7p	
営業外収益	2	4	3	△1	△26.4%
営業外費用	2	0	5	5	1147.1%
経常利益	△107	△57	30	87	
特別利益	-	0	-	△0	△100.0%
特別損失	0	10	2	△8	△81.0%
税金等調整前当期純利益	△108	△68	28	96	
法人税等	1	16	17	1	6.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	△110	△84	10	95	

- (売上高) 4K/8K製品種類の拡大によるロイヤリティ収入の反転増（15百万円）および開発売上の増加（53百万円）により増収。
- (営業利益) 原材料の評価減（41百万円）を計上したが、増収に加え、継続的な原価低減・経費節減の効果により、黒字転換。
- (特別損失) ソフトウェアの除却損計上。
- (法人税等) 単体で新たに繰延税金資産を計上したことで、利益の増加に比して、法人税等は微増に留まった。
- (最終利益) 営業利益、経常利益の黒字化により、最終利益も黒字に転換。

連結決算概要 (BS)

単位：百万円

資産	2018年 12月末	2019年 12月末	2020年 12月末	前期末比
現金及び預金	1,083	631	806	175
売掛金	47	48	73	24
仕掛品	26	21	18	△2
原材料及び貯蔵品	92	374	257	△117
その他	16	24	16	△8
流動資産合計	1,266	1,101	1,172	71
有形固定資産	21	22	18	△3
ソフトウェア	24	14	9	△4
のれん	85	42	17	△25
その他	1	1	2	1
無形固定資産合計	111	58	28	△29
投資その他資産	50	40	40	1
固定資産合計	183	120	88	△32
資産合計	1,450	1,222	1,261	39

(資産)

- ・利益計上やキャッシュ・アウトを伴わない費用が多く、現預金が175百万円増加した。
- ・前期に前払いしたことで計上した原材料は払出による減少に加え、評価減41百万円により原材料及び貯蔵品が117百万円減少した。

(負債・純資産)

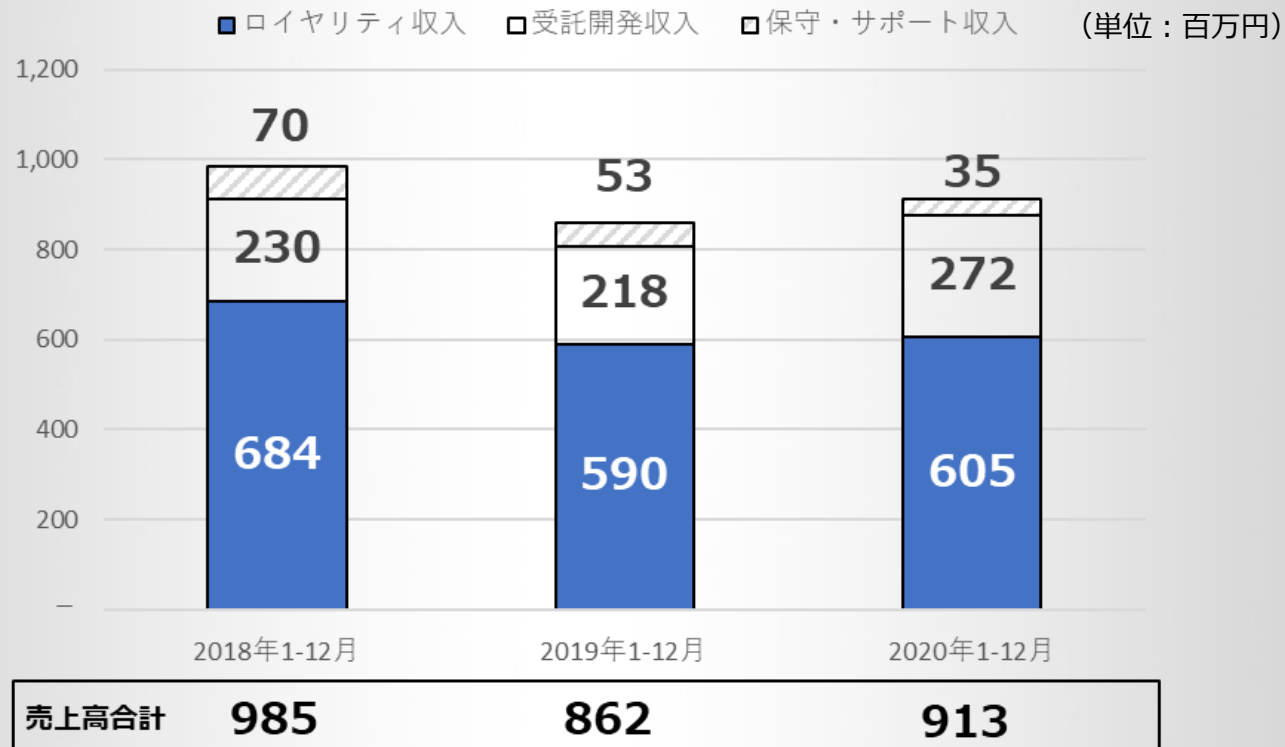
- ・利益計上により未払法人税等が7百万円増加した。
- ・自己株式は株式報酬に活用したことで18百万円減少した。

(資金繰り)

- ・当期末の現預金は806百万円で、運転資金には十分である。

負債・純資産	2018年 12月末	2019年 12月末	2020年 12月末	前期末比
買掛金	49	20	10	△9
短期借入金	124	—	—	—
未払法人税等	6	7	15	7
未払費用	39	53	60	7
賞与引当金	2	2	2	△0
その他	44	35	53	18
流動負債合計	265	118	141	23
固定負債合計	8	8	8	1
負債合計	274	126	150	23
資本金・資本剰余金	4	1,175	1,164	△11
利益剰余金	219	134	144	10
自己株式	△227	△219	△201	18
その他	1,179	5	3	△1
純資産合計	1,175	1,095	1,111	15
負債・純資産合計	1,450	1,222	1,261	39

形態別連結売上高推移



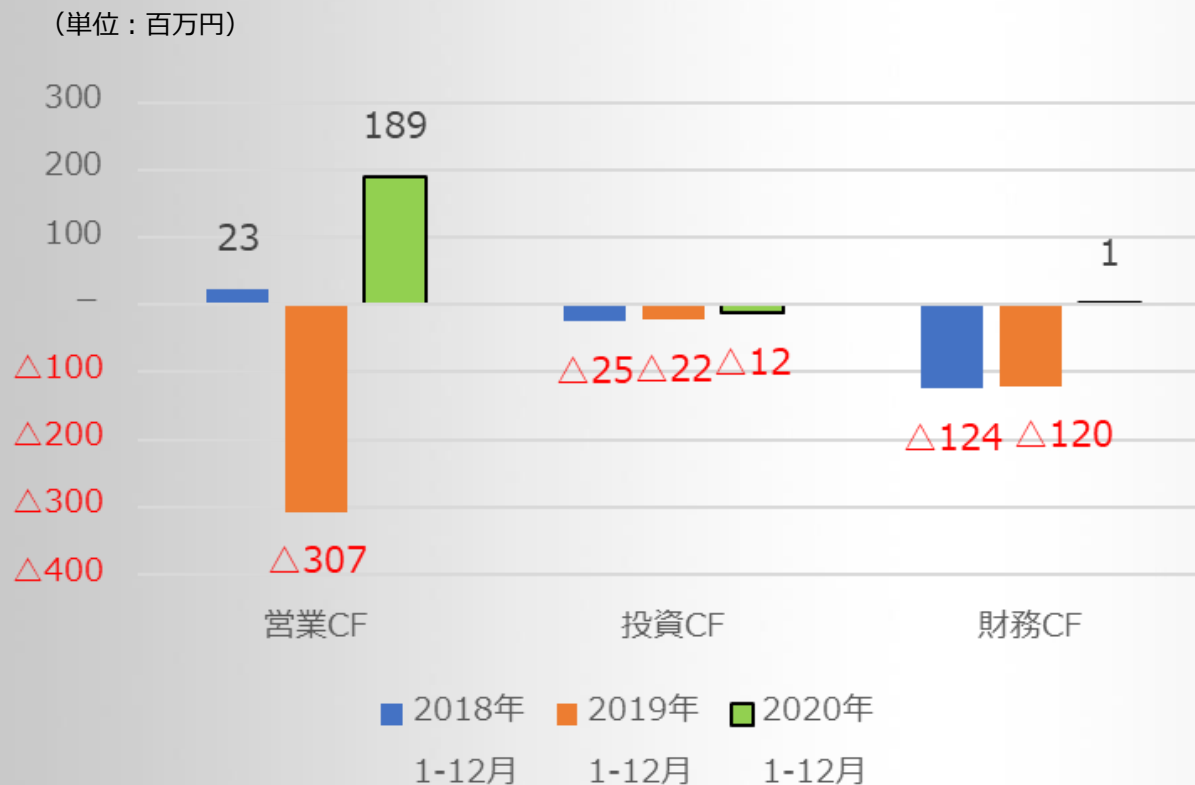
(ロイヤリティ収入)

円高による円建て金額の目減りおよび一部既存製品での低迷があったが、4K/8K製品種類の拡大による底上げが寄与して、15百万円の増収。

(受託開発収入)

4K/8K製品での開発案件で、規模の大きなものがあり、53百万円の大幅増収。

連結決算概要 (CF)



(営業CF)

前期は、支払ロイヤリティの前払いを実施した影響で307百万円のマイナスであったが、当期は、利益計上に加え、前期の前払いの効果があったことで、189百万円のプラスとなった。

(投資CF)

前期は、4K/8Kブラウザ開発関連の機器購入が多かったが、当期は少なかった。

(財務)

借入金は前期に全て返済し、借入金返済による支出がなくなり、当期はプラスになった。

順調にライセンス案件の積み上げが出来てきております。

- 2020/3 バッファローに、「sMedio True DVD Streamer」を提供。
- 2020/6 ロジテックに、「sMedio True DVD Streamer」を提供。
アイ・オー・データに、「sMedio True DVD Streamer」を提供。
- 2020/8 Hitachi-LG Data Storageに、「sMedio True DVD Streamer」を提供。
「tourbillon」が、2,300万ライセンスに到達。
- 2020/10 富士通パソコンFMVに、「sMedioスマホデータ転送」を提供。
- 2020/11 「VALution BD(4K対応版)」が、2,000万ライセンスに到達。
- 2021/1 ロジテックに「True DVD SE」を提供。
NECパソコンLAVIEに、「sMedio True BD / True DVD」を提供。

建設業界向けソリューションの本格提供を開始。

- 「切羽AI評価システムサービス」においては複数顧客獲得。
- 「動体認識AI解析サービス」を発表。

2019/10	西松建設と「切羽AI評価システムサービス」を共同開発。
2020/3	不動テトラに「切羽AI評価システムサービス」を提供。
2020/5	演算工房のトンネル施工管理システム「CyberNATM」と連携。
2020/10	大豊建設に「切羽AI評価システムサービス」を提供。
2020/12	「動体認識AI解析サービス」を発表。

The logo for sMedio, Inc. is displayed within a white circle with a blue border. The text 'sMedio' is in a bold, sans-serif font. The 's' is dark blue, 'Medio' is dark blue, and the 'i' is red. A small satellite icon is positioned above the 'o'.

sMedio

2021年12月期 業績予想・事業方針

2021年12月期ハイライト

売上高	1,034百万円(前期比13.2%増)
営業利益	53百万円(同67.2%増)
最終利益	36百万円(同252.4%増)

4K/8K高解像度ソリューション関連のロイヤリティ収入の上積みに加え、既存製品のロイヤリティ収入の持ち直しによる増収を見込む。

年間を通じて、建設業界向けAI+IoTソリューションの新規機能開発およびサービス拡張を図る。

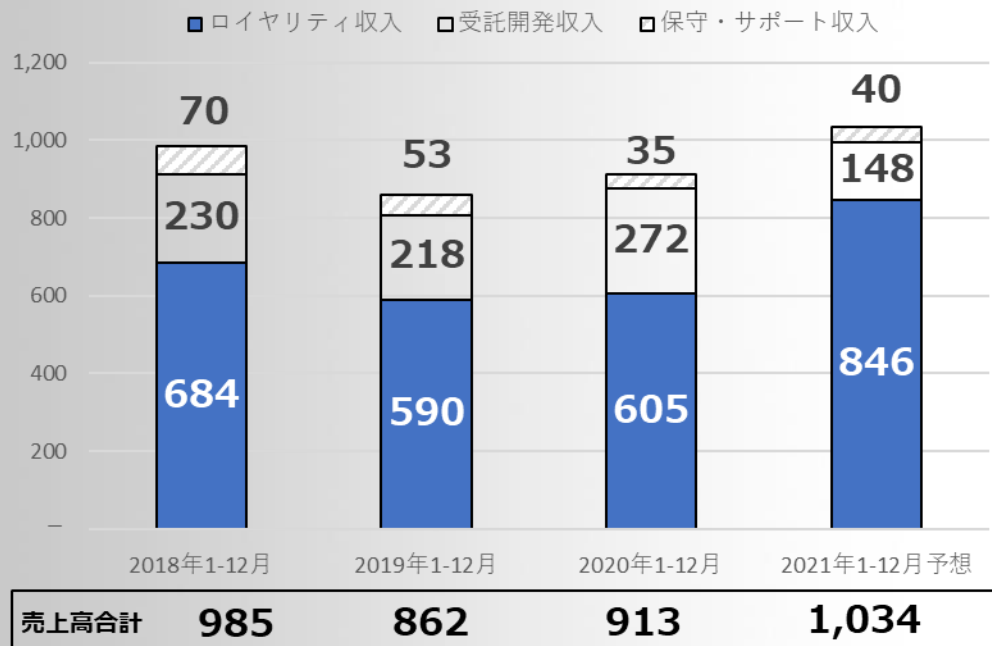
2021年12月期業績予想

増収増益を目指す1年。

4K/8K高解像度ソリューション関連のロイヤリティ収入の上積みに加え、既存製品のロイヤリティ収入の持ち直しによるロイヤリティ収入の増収により、開発収入の反動減を補って、増収を目指す。

	2018年	2019年	2020年	2021年	単位：百万円	
	12月期 (実績)	12月期 (実績)	12月期 (実績)	12月期 (予想)	前期比	
売上高	985	862	913	1,034	120	13.2%
売上原価	548	467	446	501	54	12.2%
売上原価率	55.6%	54.2%	48.9%	48.4%	$\Delta 0.5p$	
売上総利益	437	394	467	533	66	14.2%
販管費	544	456	434	479	44	10.3%
営業利益	$\Delta 107$	$\Delta 61$	32	53	21	67.2%
営業利益率	$\Delta 10.9\%$	$\Delta 7.2\%$	3.5%	5.2%	1.7p	
営業外収益	2	4	3	—	$\Delta 3$	$\Delta 100.0\%$
営業外費用	2	0	5	—	$\Delta 5$	$\Delta 100.0\%$
経常利益	$\Delta 107$	$\Delta 57$	30	53	23	79.3%
特別利益	—	0	—	—	—	
特別損失	0	10	2	—	$\Delta 2$	$\Delta 100.0\%$
税金等調整前当期純利益	$\Delta 108$	$\Delta 68$	28	53	25	92.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	$\Delta 110$	$\Delta 84$	10	36	26	252.4%

形態別売上高の推移



(ロイヤリティ収入)
4K/8K関連製品の拡大、既存製品の持ち直し、当社製品TrueDVD/BDの新規採用等で、増収を見込む。

(開発収入)
下期の開発案件の見積りを厳しくしたことにより、減収を見込む。

2021年12月期の事業方針

- 当社の成長事業である、「パソコン向け・デジタル家電向け組込みソフトウェア事業」と、「建設AI + IoT事業」に経営資源を集中させます。
- 放送サービスの高度化（放送機器の4K/8K高解像度化や通信連携機能の強化）、建設業界でのDX推進の流れを的確に把握し、製品投入、営業強化に努めてまいります。
- ロイヤルティ収入案件とサービス収入案件を増やし、安定した収益基盤の構築を目指します。

パソコン向け・デジタル家電向け組込みソフトウェア事業

業界トピック：

コロナ禍によるパソコン使用時間の増加とテレワーク
新4K8K放送対応機器が725万台突破(2020年12月末現在)

当社製品

パソコン向けソフトウェア

- Playback(再生する) & Wireless Connectivity(つなぐ・転送する・保存する)ソフトウェアの拡充。
- B2Bパソコン、GIGAスクールパソコン向け案件開拓。
- 営業強化、クロスセル加速。

tourbillon

- 高度BS/CSブラウザに加え、ハイブリッドキャストブラウザを製品投入し、製品販売単価を増やします。
- 営業強化、他顧客開拓に注力します。

VALution

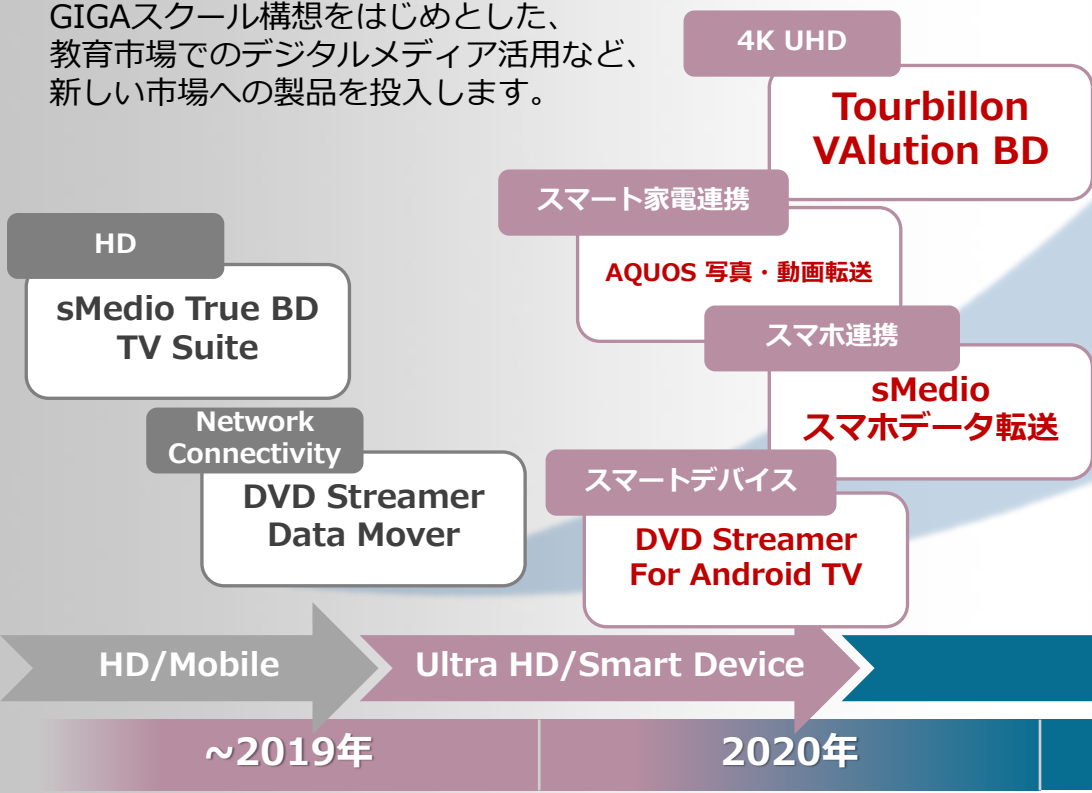
- 受注済み顧客向けの製品開発と納品を急ぎます。

パソコン向け製品・ロードマップ

「新しい生活・新しい市場」に適應した製品を投入

DVD、Blu-ray再生ソフトベンダーから
アドバンスド・ソフトウェアベンダーへ
PC・モバイル・家電メーカーとの協業で培った技術と販売力を
次世代機器・エンターテインメント市場へ対応、拡張していきます。

また、テレワーク、リモート会議など、メディア/通信技術の
ビジネス市場への展開、
GIGAスクール構想をはじめとした、
教育市場でのデジタルメディア活用など、
新しい市場への製品を投入します。



次世代デバイス

8K Ultra HD活用シナリオ
5Gスマートフォン
次世代PCプラットフォーム

Windows® on ARM

新しい働き方

テレワーク/ビデオ会議
B2B/エンタープライズ市場
働き方改革

ストリーミング時代

Android TV™
ネット動画サービス拡張・統合
Ultra HDコンテンツ保護

新しい教育

Chromebook™
GIGA スクール構想
リモート授業

デジタル家電向け組み込み製品・ロードマップ

tourbillon

4K/8K
放送対応ブラウザ

地上波/BS/CS
BML

地上波/BS/CS Hybridcast対応

高度BS/CS 4K/8K HTML5対応

EPG電子番組表 4K8K対応

高度BS/CS 4K/8K向け VOD対応 (Mpeg dash Player / PlayReady)



4K/8Kテレビ



BD/HDDレコーダー

VAlution

4K/8K
再生・配信
エンジン

ディスクオーサリング機能 (New)

UHD-BD/BD/DVD/メディア再生

コンテンツプロテクション(AACS2.0/BD+/CSS/CPRM/DTCP)

ネットワーク再生
2K(DMP/DTCP)

ネットワーク再生4K(DMP/DTCP)

ネットワーク配信サーバ対応 (DMS/DTCP)



セットトップボックス
(STB)

2020年

2021年

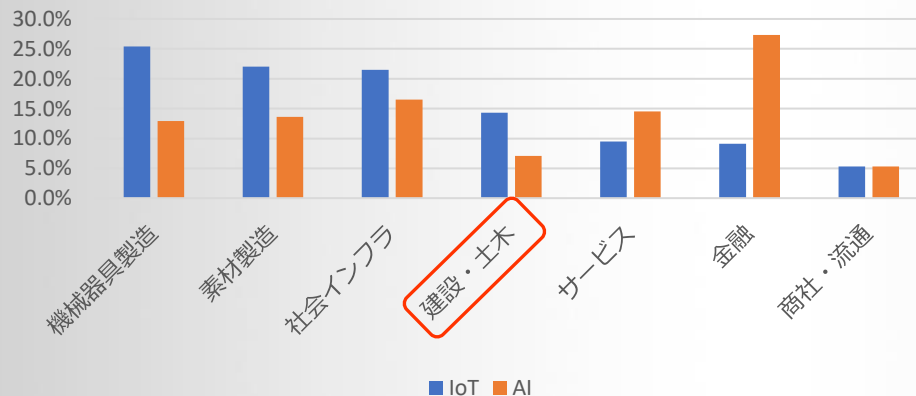
2022年

2023年

業界トピック： 建設 x IT「コンテック」が加速

- 「コンテック」とは、建設（コンストラクション）とIT（情報技術）を組み合わせた新しい技術。日本では国土交通省が2016年からITで生産性を高める「i-Construction」を推進している。
- 建設業界は、労働集約型産業で、作業者の経験・ノウハウに依存している部分が多く製造業などに比べてITの導入が遅れている。
- 労働人口の減少や高年齢化が問題となっている。

業界別AI・IoT導入率

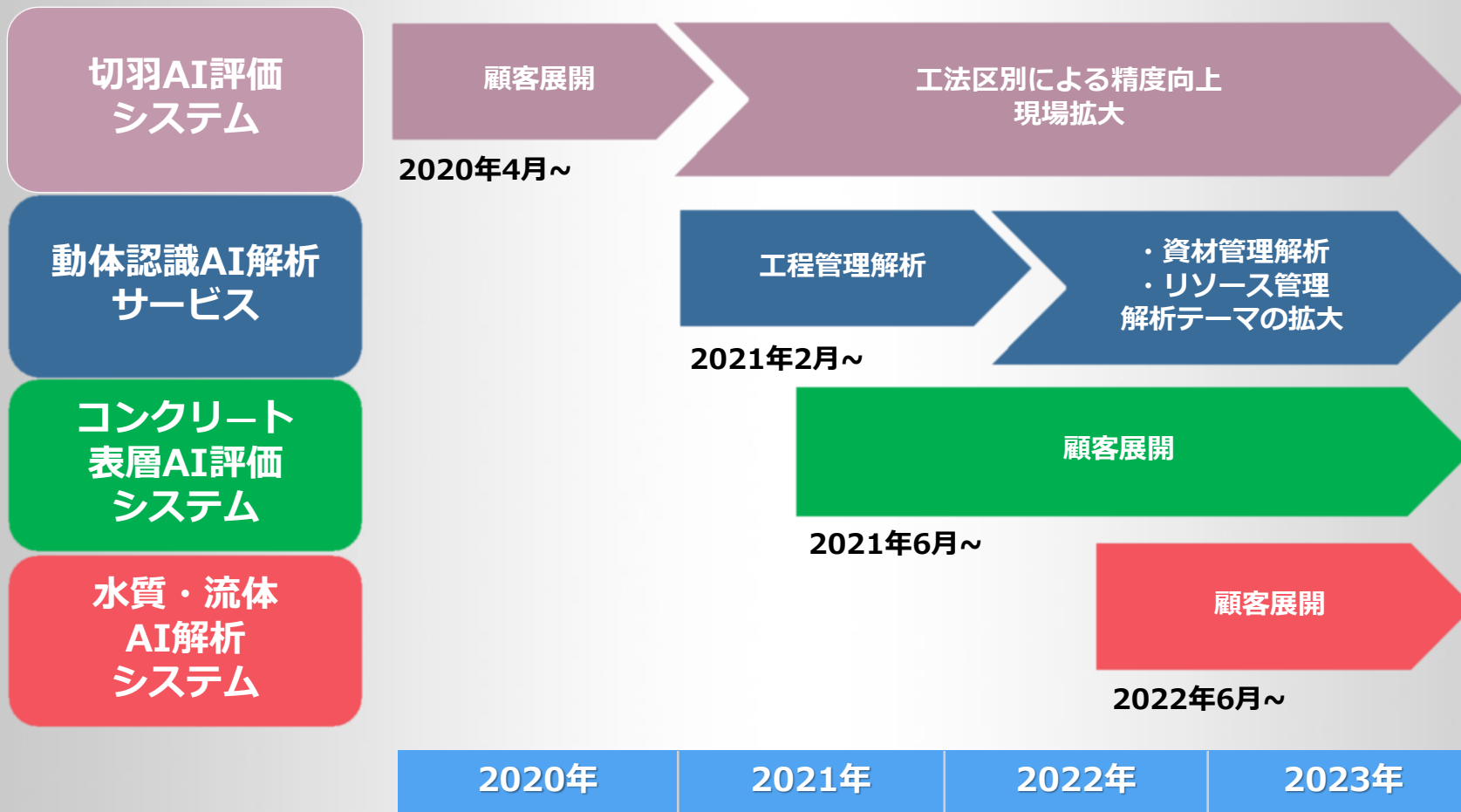


(出所) 一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会
「企業IT動向調査2020(2019年度調査) 2020/4」

sMedioは「コンテック」における課題を解決するソリューション提供を推し進めています。
sMedio AI Technologies for Construction

土木・建設AI+IoTサービス：ロードマップ

sMedio AI Technologies for Construction は、土木・建設現場向けに特化したAI画像認識技術です。sMedioは、土木・建設現場向けさらにクラウドシステム、エッジシステムを組み合わせ、AIoTサービス群として付加価値サービスを提供していきます。



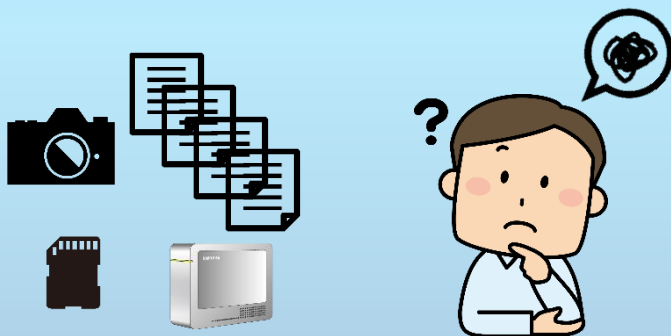
「切羽AI評価システムサービス」概要

- 山岳トンネル掘削時の断面である「切羽(きりは)」の状態を、画像AI処理で判定支援
 - タブレットで撮影した写真、スコアをクラウドで一括管理
 - クラウドに保存したデータを切羽観察簿に自動反映することで作成の手間を軽減
- 2020年4月1日よりサブスクリプションサービスとして開始

導入前



切羽評価のノウハウを人から人へ伝承

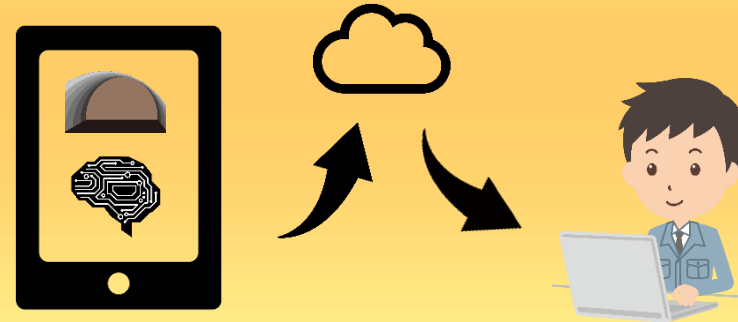


- ・観察データは現場毎に個別管理
- ・データ保管も個人にお任せ

導入後



切羽の評価をAI処理で判定支援



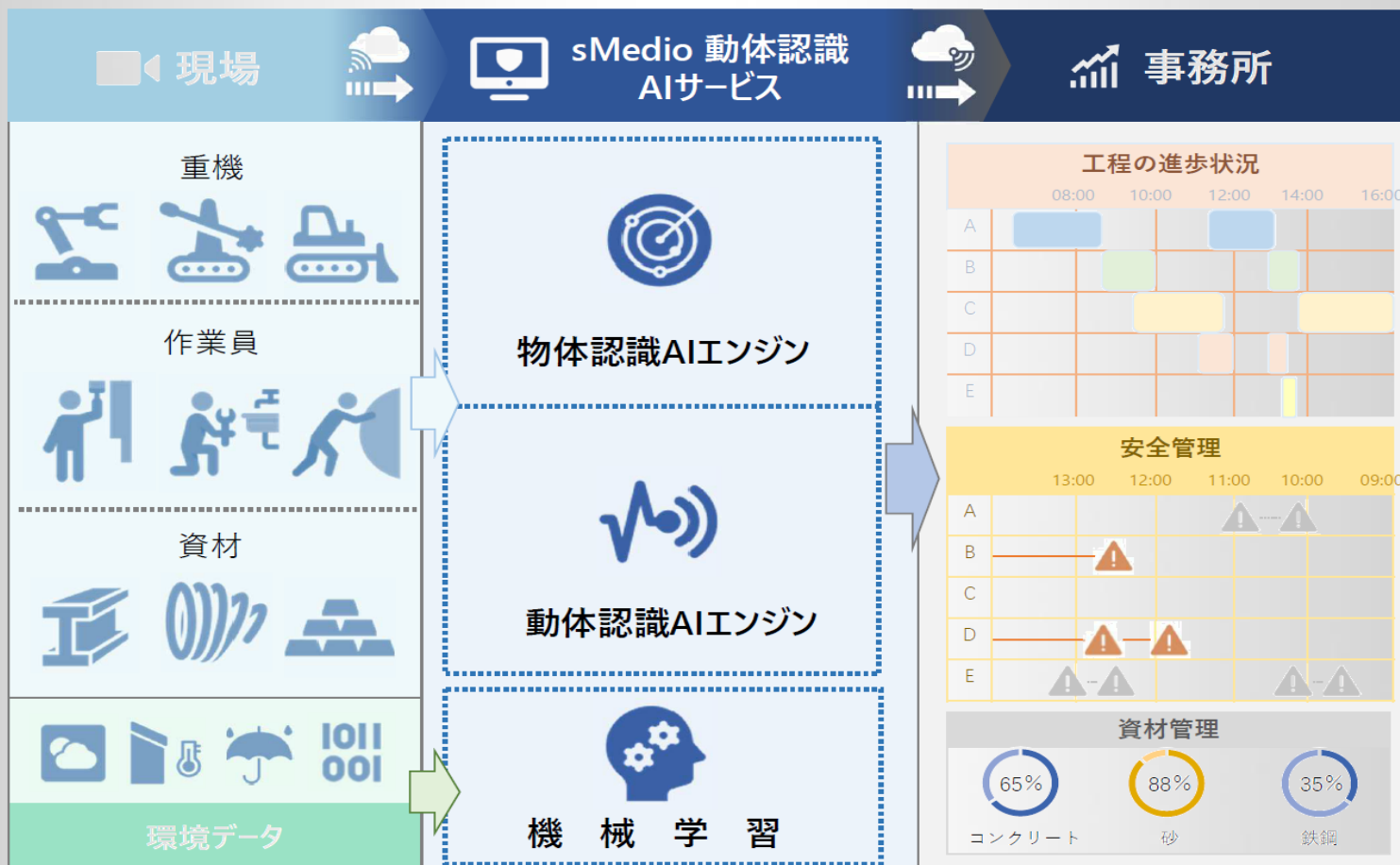
- ・タブレットで撮影した写真と入力スコアをクラウドで一元管理
- ・切羽観察簿をどこでもダウンロード

「動体認識AI解析サービス」概要

現場における人、物体（建築機械・機材・重機）などの認識と、それぞれの動きの認識を行い、その結果に基づく解析評価を提供。解析項目例として、

- ・現場における機材の動きを検出し工程の進捗状況推定
- ・使用資材のボリュームを推定
- ・人の動き検出することで現場の安全確認のアラート発信

2021年2月1日よりサービス開始



代表メッセージ

2020年12月期の業績は、各段階利益で黒字化を達成でき、数年来の低迷した状況から回復しつつあります。

まだまだ利益の額は小さく予断は許しませんが、ライセンス案件の積み上げ、サービスビジネスの立ち上げも進んでおり、利益の質も良くなってまいりました。

今期は中長期での安定収益の確保を見据えた開発・営業面での投資が必要になる中、業績面でもバランスをとって収益確保できるよう、社員一丸となって取り組んでまいります。

The logo for sMedio, Inc. is displayed within a white circle with a blue border. The text 'sMedio' is in a bold, sans-serif font. The 's' is dark blue, 'Medio' is white, and the 'i' is red. A small satellite icon is positioned above the 'o'.

sMedio

会社概要

会社概要

社名	株式会社 sMedio (東証マザーズ: 3913)
所在地	東京都中央区新川2-3-1 セントラルスクエア 8F
設立年月日	2007年3月16日
代表者	岩本 定則
資本金	510百万円 (2020年12月31日時点)
従業員数	社員数70名(役員を含む) (支配権のある子会社含む: 2020年12月31日時点)
子会社	(株)情報スペース、タオソフトウェア(株)、sMedio Technology(Shanghai)、sMedio America
開発拠点	中国: 上海 日本: 東京、岡山、福岡
主幹事証券	S M B C 日興証券株式会社
監査法人	海南監査法人
主な取引先	Microsoft Corp.、株式会社NTTドコモ、シャープ株式会社、Dynabook株式会社、富士ソフト株式会社、株式会社アイ・オー・データ機器、ソースネクスト株式会社、セイコーエプソン株式会社 (順不同)

